

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、良好な河川の保全・再生が創り出す健全な水循環系及び歴史・文化と共存する地域社会の実現に向け、河川再生について共に考え次の行動へと後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動しています。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目次

	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	7
➤ 会議・イベント案内.....	8
➤ 書籍等の紹介.....	8
➤ 会員募集中.....	9

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

市民等による河川再生活動の事例集「川を活かす・守る～河川再生事例集～」のご案内

【お知らせ】

2011年3月に、国内外の河川再生に関する事例集「よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集～（URL：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/25>）」の発行を受けて、会員の皆様より「河川保全活動を行っている方の生の声を聞きたい」とのご要望をいただきました。

それらご意見を踏まえ、河川再生の取り組みをクローズアップした事例集を作成しました。

事例集の作成にあたり、河川再生に関わる清掃活動、河川再生に関わる協議会への参加、外来種駆除、環境教育等多様な活動をされている方々より寄稿いただき、それらを取りまとめたものとなっております。

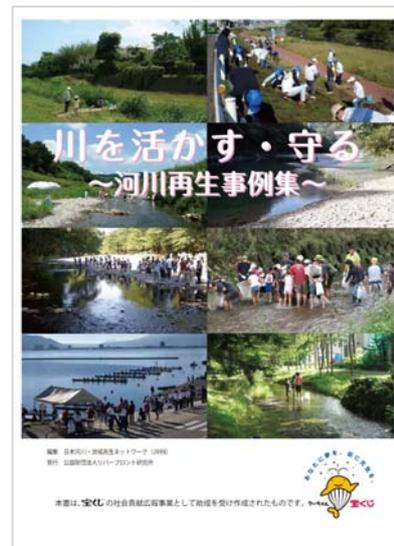
この事例集は、既に全国の図書館や学校に配布しております。河川再生に関わる活動をされている方、今後その様な活動を行いたいと考えられている方など、一人でも多くの方にお手に取っていただき、個人や各種団体の取り組みの成果や悩みを共有し、皆様の河川再生・保全活動の取り組みのヒントを見出すものとして期待しています。

また、以下のウェブサイトからもPDF形式で公開しております。そちらもご覧頂ければ幸いです。

※河川再生事例集(PDF版)ダウンロードはこちら：

URL：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/74>

【入手方法】



本事例集（印刷版）をご希望の方は、JRRN 事務局（公益財団法人リバーフロント研究所内・後藤）までご連絡ください。

なお、JRRN 会員（個人・団体）限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供させて頂きます。非会員の方は、JRRN 会員登録（無料）の上、お申込下さい。

■Email: info@a-rr.net

■電話：03-6228-3862（担当：後藤）

■Fax：03-3523-0640

※本冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成したものです。

（JRRN 事務局・伊藤将文）

「東京ホテル ひかりのシンフォニー」(2013年5月25日開催@隅田川) 参加報告

平成25年5月25日(土)、今年で2回目となる「東京ホテル ひかりのシンフォニー」が隅田川を舞台に開催され、本行事の協力団体の一員として JRRN も参加致しました。

「東京ホテル」とは、約10万個の太陽光蓄電 LED を隅田川(桜橋～吾妻橋)に放流するイベントで、東京ホテル実行委員会(墨田区/台東区/東京商工会議所/一般社団法人墨田区観光協会/浅草観光連盟/浅草みなみ観光連盟/公益財団法人東京観光財団/公益財団法人東京都公園協会/東京都商店街振興組合連合会/屋形船東京都協同組合/中央隅田漁業協同組合/東京藝術大学/天の川プロジェクト®)が主催しています。(JRRNは協力団体)

そのHPによると、『東京を世界に誇れる美しい都市へ』のスローガンの下、「水と緑の回廊で包まれた美しい東京」を再生するため、隅田川エリアを五感で楽しみ、「川と暮らすこと、新しい親水ライフ、川や環境との共生」をテーマとしているものであり、「東京都が推進している“隅田川ルネサンス”(江戸の華であった隅田川の賑わいを現代に生まれ変わらせる取組み)の一環のイベント」でもあることから、東京都が共催をしています。

19時からのオープニングセレモニーでは「東京ホテル®」の公式テーマソングを制作した持田香織さん、2004年アテネ五輪競泳女子800m自由形で金メダルを獲得した柴田亜衣さん、アテネ・北京・ロンドンのパラリンピックに3大会連続出場した佐藤夏海さんが登場し、「東京2020オリンピック・パラリンピック」招致実現への思いを語るトークセッションが実施されました。

続いて、隅田川の水面に「いのり星®」が一斉に放流されました。「いのり星®」とは、LED、充電式電池、

太陽光パネルが搭載され、水面へ着水すると同時に通電し点灯する幻想的な光の球です。特別にライトアップされた東京スカイツリーを背景として、隅田川の水面を青い光の球が覆い尽くし、ゆっくりと下流に流れていく様子は、他では見る事の出来ない珍しい景観でした。この日は、主催者発表によると28万人近くの人が集まり、思い思いに水辺を楽しんでいたようです。

ところで、前述のようにHPには「隅田川エリアを五感で楽しみ」とあり、さらには「明かりを消した静かな街で、水面がほんのりと光る」と表現されていますが、大都会・東京の真ん中を流れる隅田川では、なかなかそのような贅沢は許されないようです。川沿いの施設から漏れる様々な光や都会ならではの音の数々は、「ホテル」を鑑賞する舞台としてはやや残念な印象を与えていました。

平成8年、当時の環境庁は、「残したい“日本の音風景100選”」を選定しています。例えば東京都では、「柴又帝釈天界限と矢切の渡し」(葛飾区)、「上野のお山の時の鐘」(台東区)、「三宝寺池の鳥と水と樹々の音」(練馬区)、「成蹊学園ケヤキ並木」(武蔵野市)の4つが選定されています。また、同じく平成13年には「かおり風景100選」の選定も行われています。東京都では「神田古書店街」(千代田区)、「新木場の貯木場」(江東区)の2つが選定されています。

これらの100選は、その後あまり注目されることはないようですが、音やかおりなども含め、まさに「五感」で楽しむのが風景です。「東京ホテル」のイベントも、隅田川を名実ともに誇るべき東京の風景に育てることに寄与していければ素晴らしいことだと思います。

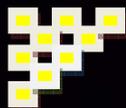
(JRRN 事務局・木村達司)



東京スカイツリーとの競演(撮影:岡村幸二・JRRN 会員)



水面に揺らぐ「いのり星®」(撮影:岡村幸二・JRRN 会員)



川系男子の『川と人』めぐり No. 14～大蔵川ほか～

『川と人』
めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きではない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介します。

♪ほー、ほー、ほーたる来い こっちの水は甘いぞ
あっちの水は苦いぞ ほー、ほー、ほーたる来い

(唱歌『ほたるこい』：作詞・作曲：わらべ歌)

1. ほたる前線北上中

桜前線が先日、稚内まで行き着いたというニュースを聞いたかと思うと、次に南から北上を始めたのがほたる前線。鹿児島県川内川流域では5月中旬から川岸に木々にとまる数千匹のホタルを鑑賞するための「ほたる舟」が出るほどの見頃を迎えたという。「ホタルが出始めた」と聞くとうずうずしてくる自身にはしっかりとほたる鑑賞が四季の風物詩として身体に刻み込まれているということだろう。

5月23日、高校時代の同級生の結婚式に出席するため地元へ帰省した。こんな時期に帰省することはめったになく、高校以来の北九州の初夏だった。ほたる前線は北九州に到達寸前であり、北九州市周辺の河川ではほたる目撃情報がちらほら出てきていた。

少し余裕を持って帰省したので、久々に地元のほたるめぐりをし、自身の少年時代の記憶をたどってみることにした。



図1 大蔵川（板櫃川上流部）の川の様子

2. 大蔵川のほたと土佐野先生（5月25日）

北九州市八幡東区大蔵を流れる板櫃川。大蔵周辺の人は愛着を込めて大蔵川（図1）と呼ぶ。この大蔵地区は洞海湾から急にきつくなる傾斜上にあり、古くからの閑静な住宅街である。工業地帯周辺に平野がなく、海からすぐ山になり、山の斜面に住宅を展開させた事例としては六甲山地をイメージすると分かりやすいかもしれない。上流域には河内貯水池など水源域がある。何度か大蔵川には行ったことあるのだが、この時期に行ったことがない。大蔵川のホタルの話は人づてによく飛ぶと聞いていた。

昔から北九州市自然史博物館自然史友の会の自然観察会などでお世話になっていた土佐野先生が大蔵にお住まいなので電話をかけてみることに。

坂本：「先生、ご無沙汰しています。実は今地元へ帰ってきているのですが、ホタルが見たいなあと思ってきました。」

土佐野：「今年は早いようでもう結構飛んでいるよ。今夜も結構飛びそうだからおいで。」夕方18:30頃に何うことにした。この時期の18:30はまだ明るい。土佐野先生のご自宅に伺い、明るいうちに大蔵川周辺を散策。川沿いには家が張り付いているものの、川の中は植生



図2, 3 子供達が作成した大蔵川愛護のポスター

もみずみずしく生えている。側面はコンクリートで高低差もあり少し親水性にかけける区間もあるが、典型的都市河川の中でうまく自然を創出している。

橋には大蔵小学校の子供達が作成した大蔵川愛護のポスターが貼ってある（図2, 3）。多く小学校は大蔵川のすぐ目の前を流れており、横断歩道渡ったらすぐ川だ。小学校前の勝田橋は木製のあたたかみのあるデザインがされていて、橋の下には水車や親水空間が整備されていて、子供達にとっても自分の庭のような川だ。この地域は小学校、自治会が緊密に連携して活動を行っており、大蔵川の清掃が盛んに行われている。周囲の自治会のメンバーで活動する『大蔵川を守る会』は上流域の高速道路などのトンネル工事などで川の水

量が減少に加え水質汚濁などが目立ち始めた1969年に組織された団体で歴史は深い。自治会の構成員で行ってきた活動のため、代替わりしながら長く続いているのかもしれない。1994年から大蔵川の清掃活動をはじめ、小学校の児童らとともにやってきたという。

土佐野先生は数年前までは市内の小中学校校長で、ご退職後の現在は大蔵川を守る会の会長として児童と環境学習に取り組んでおられる。小学校で長年教育に携わってこられただけあって、子ども達への川の活かし方を常に考えておられる。

「最近ホタルが飛び出したからホタル情報のチラシを作っておね、これを近所の人にばらまいてやろうかと思ってて。これでじいちゃん・ばあちゃんの家で孫が遊びに来るキッカケになったらいいでしょ？」きつとこのビラがポストに入った家のおじいちゃん、おばあちゃんは孫に「ホタル飛んでよ！見においで。」と連絡を入れるだろう。

昨年度はホタル観察会も開催し、300名近くの方が観察に来たそうだ。最近ではホタルを見るイベントをほたる祭りとするところも多いが、あくまで観察会にしたいそうだ。常に学びの姿勢を考えるのは土佐野先生流だろう。

2.2. 日没2時間後の大蔵川

20:00頃になると辺りはすっかり暗くなった(図4)。ホタルは日没2時間後が最もよく飛ぶため、20:00～21:00までの間が最も観察に適した時間である。土佐野先生と一緒に川沿いの遊歩道を歩く。遊歩道の明かりのほとんどは黄色灯になっている。ホタルは白色灯の明かりを昼と勘違いして飛ばなくなることがあるという。方や黄色灯はホタルが波長を感じないため飛翔に影響はないのだという。この地域ももともと白色灯の電灯だったが、ホタルへの影響を考え、自治会で寄付を募り約200万近く集め、黄色灯に変えたという。(土佐野先生曰く、この地域は地域の交流が盛んなためこういう協力を求めると応援してくれる人がたくさんいるそうだ。)白色灯がホタルの飛翔に影響を与えると知っている河川管理者、道路管理者などは一体どれくらいいるだろうか？河川管理者は河川構造物だけでなく、周囲の環境も総合的に管理してこのような影響を極力少なくしてほしいし、道路管理者も道路のことだけでなく、すぐ横の河川のことも考えてほしい。

堤防上の遊歩道のフェンスから川の中を覗き込む。川の中は闇に包まれていて、注水植物が闇を深くしている。草の葉の間をちょろちょろ流れる川の音だけが聴こえる。じーっと目を凝らしてみると草の中からふわっと淡い黄色の光が舞いあがった。

「あっ！いた！」思わず声を出して一番星を指差した。堤防付近まで舞い上がったホタルは堤防の上の桜の木にピタッと止まって光りはじめた。川底の草の葉の間から次々光り始める。思わず「あっちに



図4 日没後の大蔵川

も！あ、こっちも！」と声を出してしまうのは溢れ出す歓喜ゆえだろう。いつの間にかあちこちで絶え間なくホタルが光っていた。

土佐野先生がおっしゃるに、堤防の側面の植生や堤防上の植生があるとそこも止まり木として利用するので掘り込み河道のような河川で底が深くても近くでホタルを見ることができるそうだ。逆に低水路以外に植生がないとホタルはそこでしか止まることはできない。このような習性も親水空間の演出のためには河川管理者は把握できるとよりよい親水空間の創出につながるだろう。

下流に向かって再び歩き始める。少しひやっとした夜風が顔を拭い、時々光るホタルの光が身体に涼をもたらす。途中ですれ違った散歩の人とても気持ちよさそうなのは「こんばんは！」という挨拶の声を聞くと分かる。

歩いていると対岸から「あ、また光ったよ！」「あらほんとね！」と声が聞こえてくる。対岸には4～5人の黒いシルエットだけ見える。おそらく近所の家の方が家族で見に来たのだろう。ホタルの光だけでなく、あちこちから湧き上がる歓声もホタルを楽しむ大事な要素の一つだろう。

約1時間の散歩を終え、大蔵川のほたる観察を終了。川と家の距離が近いだけに身近に感じたホタル観察であった。

3. 尺岳川のホタルと思い出(5月24日)

八幡東区でホタルを見て帰路につき、近くまで迎えに来てもらった。ちょっと家路を遠回りしてもらい、直方市を流れる遠賀川水系尺岳川沿いを通って帰ることに。ここは高校時代の通学路でちょうどこの時期は文化祭間近で夜20:00頃川沿いを自転車で通って帰っていた。車の窓を開けると初夏独特の草露の匂いと少しどぶ臭い川の匂いが鼻を突き、当時のことが脳裏に蘇ってきた。

(回想-高校時代-)

まだ真新しい制帽をかぶった高校生1年生が家路を急ぐ。国道を右折し、だんだんと細い道に入り車の台

数も減りあたりは暗くなった。細い道の横には川が並走して流れている。田んぼから蛙の鳴き声が聞こえどこか少し物悲しい。結構この時間に帰るのは怖いのだ。明かりもなければ人気もない。周囲が静かなだけに川の中で時々魚がピチャンと匆ねる音でびくっとする。なんだか空気も少し生暖かい気がする。闇の中での風や音は少年の恐怖心を助長させるには十分であった。突然のウシガエルの「うもお～」と鳴く声はもうこの上ない恐怖だった。

ふと川底に目をやると小さな目玉がいくつか光った。嗚呼、もうだめだ。とうとう出たんだ……。今度は目玉が川底から飛び上がった。幽霊は空も飛べるらしい。スピードあげて走り去りたいが、文化祭の準備のために持ち歩いていた荷物が重くて自転車のスピードはこれ以上出ない。もう闇に万事休す。

恐怖は判断力も落すらしく、光がホタルだと分かったのは川沿いを一時走ってからだった。家族ではよくホタルを見に行っていたが一人でホタルを見たのはこの時が初めてだった。こんなコンクリート張りの小さな川で少しどぶ臭い川にもホタルは飛ぶことを知った。

それからというもの文化祭準備の帰りの川沿いは毎日が楽しみになった。恐怖とは心の持ちよう、闇夜もウシガエルの鳴き声もホタルを見る演出の一部に感じる。自転車でできるだけゆっくり川沿いを通り時には橋の上に自転車を止めてホタルを眺めた。

～○～●～○～●～○～●～○～●～○～●～○～

細道に差し掛かり、車を降りて少し細道に入っていく。だんだん川に近づきながら川を覗き込むがホタルの光は見えない。もういなくなっちゃったのかなと一瞬思ったが、橋まで来て深く下を覗き込むと橋の下をホタルが乱舞していた。高校時代と変わらない風景が10年近くたった今でも残っていた。

尺岳川は小さな河川で中流部以降は決してきれいな水質ともいえないし、川も無機質で一見魅力的な川とは思えないが、私にとっては大切な思い出の川だ。

4. 黒川のほたる祭り (5月25日)

ホタルを見てきたと弟に話すと妙に食いついてきた。普段は私が帰省した際も話を鬱陶しがら次男だが、今日はよく話に乗ってくる。「もうホタル飛びよーと？俺も見に行きたい。」小さい頃ホタルはよく家族で見に行っていたのでホタルを見に行く時のワクワク感はまだまだ残っているようだ。

車を走らせ、八幡IC付近の遠賀川水系黒川に。黒川は新堀川・笹尾川と合流し、遠賀川に注ぐ。

この黒川では毎年ほたる祭りが行われるほどホタルが数多く舞う。川底や川の中の植物などを『香月・黒川ほたるの会』が手入れをして生き物の棲みやすい水辺空間を維持している。ホタルは人里の生き物であるから少し手の入った川のほうがよく飛ぶ。

川沿いにはほたる祭りの幟旗や橋の上の赤ちょうちん



図5 香月・黒川ほたるまつり

などがほたる祭りが近いことを知らせていた(図5)。6月1日～2日のほたる祭りにはまだ早い十分な数のホタルが舞っていた。見物に来ている人も結構多くあちこちから声が聞こえる。「ほー！ほー！ほたるこい！」なんとほたる歌まで聞こえる。

闇の中を盛んに舞っていてきれいだが、見物に来る人が多いのでしょっちゅう川沿いに車が通り、ライトが川を明るく照らしてしまうのが少し興奮め。

1週間後にはもっと飛びそうだ。

5. 今年のホタル

今年は例年より1週間程度出現が早い地域もあるようだ。数は多めのようなのだが、少しホタルの体長が2～3mm小さい気がする。まだ出始めだからかもしれない。ホタルを一度は見ないと夏の川は始まらない。最近まだホタルを見たことが無いという人がちらほらいるので、一度はぜひ連れて行ってあの感動を味わってほしいと思う。川に季節感を出す自然の芸術に今しばらく酔いしれたい。

【筆者について】

坂本 貴啓 (さかもと たかあき)

1987年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC(青少年博物学会)、大学時代ではJOC(Joint of College)を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。

筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 構造エネルギー工学専攻在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『河川市民団体における活動量の定量的分析』と題し、河川市民団体の活動がどの程度河川環境改善の潜在力を持っているかについて研究中。最近のお気に入りにはホタルを見に行くこと。



水辺からのメッセージ No.49

岡村幸二 (JRRN 会員)

「印象 日の出」の港町： 戦後の都市復興計画で甦った近代都市が世界遺産に登録



撮影：2013年5月（フランス ル・アーブル Le Havre）

◆印象派発祥の地

140年前に画家のモネが「印象 日の出」を描いたセヌ川河口のまち。フランス屈指の港湾都市です。第2次大戦中ドイツ占領下の激しい戦闘で壊滅的被害を受けました。戦後、建築家オーギュスト・ペレの指揮のもとで、鉄筋コンクリートを活用した近代的建築の街が復興されました。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

【JRRN 会員からの提供情報】

- 「ゲリラ豪雨展」(6/1-9 開催@こども未来館ここにこ)、「雨といきもの展」(6/4-30 開催@amoa) 「水の巡回展ネットワーク (jawanet)」より、6月に開催される二つの企画展示のご案内を頂きました。

「ゲリラ豪雨展」

【開催場所】 こども未来館 ここにこ 企画展示室【1階】
 【開催期間】 平成25年6月1日(土)、2日(日)、8日(土)、9日(日)
 【開館時間】 9:30~17:00
 【主催】 こども未来館 ここにこ

「雨といきもの展」

【開催館】 荒川知水資料館 (amoa) 2階企画展スペース
 【開催期間】 平成25年6月4日(火)~6月30日(日)
 【休館日】 月曜日
 【開館時間】 9:30~17:00
 【主催】 国土交通省荒川下流河川事務所



◆ 詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/jawanet/01/top.html>

【企画制作】 水の巡回展ネットワーク

【協力】 NPO 法人 気象キャスターネットワーク、ファン ザ ミューズ、東京学芸大学環境教育研究センター、東京学芸大学グラフィックデザイン研究室

【JRRN 会員からの提供情報】

- 『第8回隅田川クリーン大作戦』(6/15 開催)

『第8回隅田川クリーン大作戦』のご案内を頂きました。

【開催場所】 隅田川テラス (桜橋~勝鬨橋 約8km)
 【開催日時】 平成25年6月15日(土) <9:00 開始~12:00 終了>



【主催】 隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会

◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1224.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

- 『“京町家で楽しむ” 第6回 一日中 水・水のえん』(6/1 開催)

「カップ研究会」より御提供頂いたイベント情報です。
 ○日時: 6月1日(土) 10時30分-午後8時30分
 ○場所: 京町家 さいりん館 (中央区室町二条上る冷泉町)
 ○主催: カップ研究会、NPO法人京都・雨水の会 他



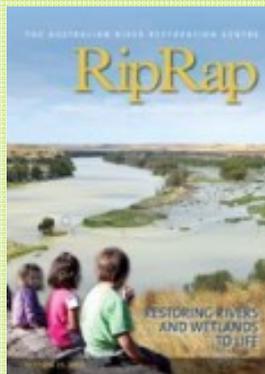
◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1232.html>

【海外からの提供情報】

- 「ARRC (豪州河川再生センター) の最新機関誌 (RipRap 35) 発刊」ご紹介

ARRC の最新機関誌 (RipRap 35) の発刊案内を、ARRC 事務局より頂きました。本号では、特集「Restoring Rivers and Wetlands to Life: 生命のための河川と湿地の再生」として、オーストラリアにおける様々な再生事例が紹介されています。



◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1220.html>

【海外からの提供情報】

- 「RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (Bulletin)」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2013 年 5 月号) を RRC 事務局より送付頂きました。

本号では、2013 年 4 月に開催されました「第 14 回 RRC 年次講演会」開催報告速報などが紹介されています。



◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1229.html>

会議・イベント案内 (2013年6月以降)

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

※前頁(P7)でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■2013年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2013年6月6日(木)～7日(金)

○主催：土木学会水工学委員会河川部会

○場所：東京大学農学部 弥生講堂

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1602.html>

■森里海シンポジウム「人と自然のきずな～森里海連環学へのいざない～」

○日時：2013年6月29日(土)

○主催：京都大学・日本財団

○場所：日本財団ビル(東京都港区赤坂1丁目)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1673.html>

■第4回 全国源流サミット in 群馬県みなかみ町

○日時：2013年7月5日(金)-7(日)

○主催：第4回全国源流サミット実行委員会

○場所：みなかみ町カルチャーセンター

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1691.html>

■応用生態工学会 第15回研究発表会

○日時：2013年9月19日(木)～21日(土)

○主催：応用生態工学会

○場所：大阪府立大学なんばセンター

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1662.html>

■第13回川に学ぶ体験活動全国大会 in 新潟見附

○日時：2013年10月12日(土)～14(月祝)

○主催：川に学ぶ体験活動協議会

○場所：見附市アルカディア小ホール

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1685.html>

■第6回 いい川・いい川づくりワークショップ

○日時：2013年11月2日(土)～11月3日(日)

○主催：いい川・いい川づくり実行委員会

○場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1635.html>

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

※日本国内で開催される国際的シンポジウムも含まれます。

- 2013.6.5-7(デルフト/オランダ) 1st International Water Integrity Forum
- 2013.8.19-21(ソウル/韓国) 6th Conference of APHW (APHW2013)
- 2013.9.2-5(京都/日本) 2th International Symposium on River Sedimentation
- 2013.9.8-13(成都/中国) 35th IAHR World Congress
- 2013.9.11(ウィーン/オーストリア) RESTORE conference, European river prize
- 2013.9.11-13(ウィーン/オーストリア) 5th European River Restoration Conference
- 2013.9.16-22(ウッチ/ポーランド) Ecohydrology, Biotechnology & Engineering
- 2013.9.23-26(ブリスベン/豪州) 16th International Riversymposium
- 2013.12.4-6(チェンナイ/インド) HYDRO 2013 International
- 2014.1.7-9(シンガポール) 7th Int. Symposium on Environmental Hydraulics ISEH
- 2014.2.24-27(パース/豪州) 35th Hydrology and Water Resources Symposium
- 2014.9.21-26(リスボン/ポルトガル) IWA World Water Congress & Exhibition

書籍等の紹介

■ PRAGMO 日本語版 河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き(2012.11 発刊)

・発行：ARRN, JRRN

・監修：白川直樹 筑波大学システム情報系 准教授

・翻訳：JRRN 会員ボランティア(10名)

・編集：筑波大学白川(直)研究室『川と人』ゼミ等



※本冊子の入手方法

本手引きをご希望の方は、JRRN 事務局までご連絡ください。JRRN 会員限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録(無料)後にお申込下さい。

info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

info@a-rr.net /

■ 川を活かす・守る～河川再生事例集～(2013.2 発刊)

・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関

・編集：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

・発行：公益財団法人リバーフロント研究所



河川再生に取り組む市民団体や行政機関の方々に、それぞれの活動を始めたきっかけ、目標、活動内容、今後の展望などを執筆頂きました。

※本冊子の入手方法

本ニュースレターの P1 をご参照下さい。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

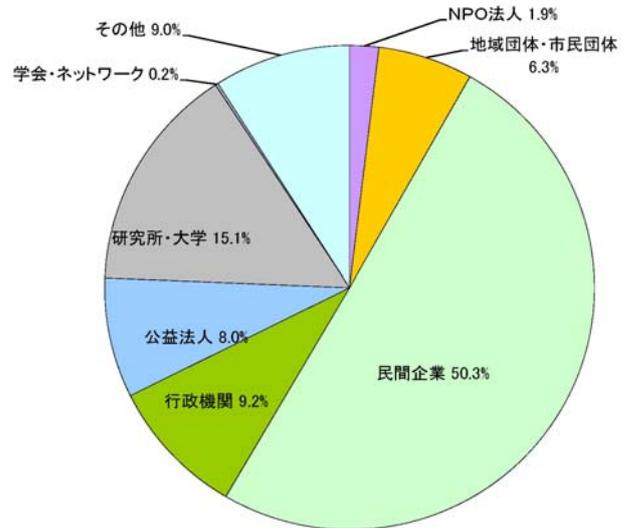
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2013年5月31日時点の個人会員構成
(個人会員数：619名、団体会員数：51団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
 公益財団法人リバーフロント研究所 内
 〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階
 Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

